

エクセルファイルにてご回答いただける方は、以下の URL からダウンロードをお願いいたします。

<http://www.kawaijuku.jp/research/activelearning/>
(短縮 URL <http://goo.gl/3ZVoug>)

2015 年度 大学のアクティブラーニング調査

■2015 年度の貴学科についてお答えください。

注) 学科ではなく、専攻、コースあるいは課程ごとに記入される場合にのみ、専攻・コース・課程欄にもご記入下さい。

大学名 _____ 学部名 _____ 学科名 _____ (専攻・コース・課程 _____)

学科の1年生の定員 _____ 人 (専攻・コース・課程の1年生の定員 _____ 人)

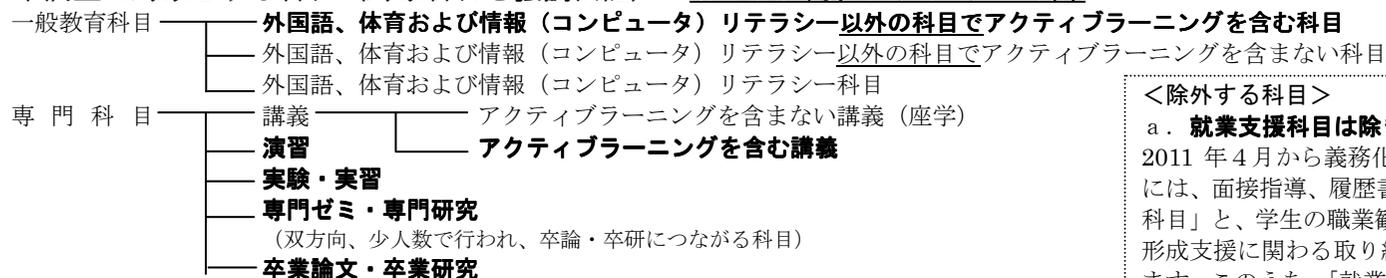
学科設置年度 西暦 _____ 年度 (専攻・コース・課程設置年度 西暦 _____ 年度)

■ご回答くださった方についてお答えください。

ご回答者	所属		(フリガナ)	
	役職		お名前	
ご連絡先	TEL		FAX	
	e-mail			
ご住所	〒 _____			

※ ご記入いただいた個人情報は、ご回答内容に関する問い合わせ、及び、調査報告書の発送、及び、今回調査報告に関する案内のためのみに使用いたします。

1) 本調査で対象とする科目 (対象科目を強調表記) ※ 2015年度のカリキュラムが対象



<除外する科目>

a. 就業支援科目は除きます。

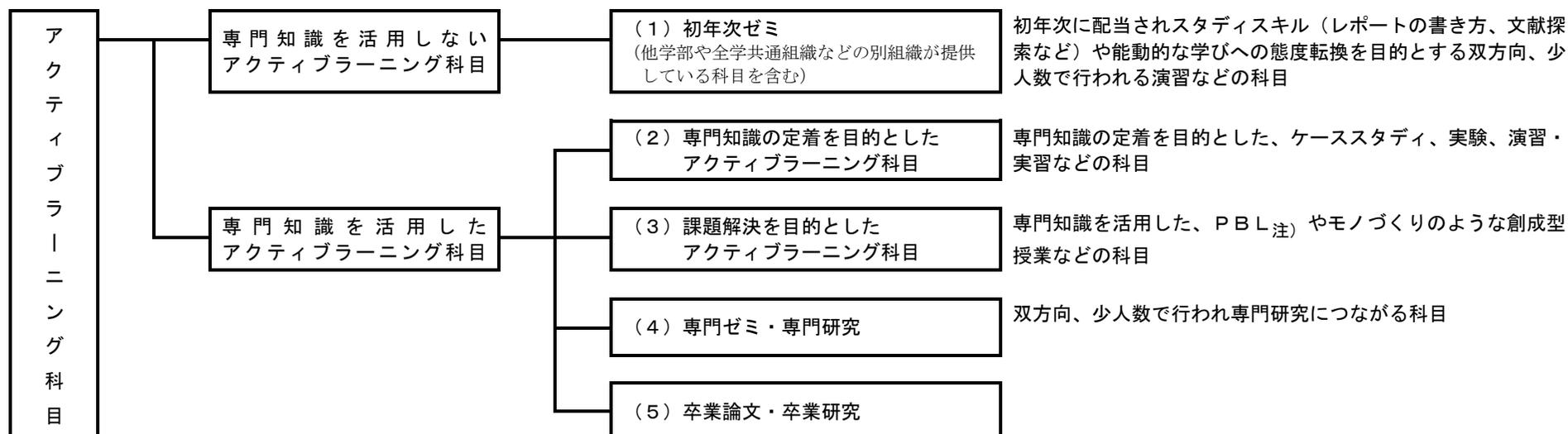
2011年4月から義務化された社会的・職業的自立に関する指導等には、面接指導、履歴書の書き方、資格取得講座などの「就業支援科目」と、学生の職業観、勤労観を育むことを目的としたキャリア形成支援に関わる取り組みなどの「キャリアデザイン科目」があります。このうち、「就業支援科目」は調査対象から除外して下さい。

b. 初年次ゼミに関する質問以外では、他学部や全学共通組織が開講している科目は除外して下さい。

2) 本調査で対象とするアクティブラーニング科目

「講義」科目	「グループワーク」、「ディベート」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「振り返り」のアクティブラーニングの5つの形態のうちのいずれかが、全開講回数のうち延べ半数以上で実施されている。
「演習」科目および「実験・実習」科目	「グループワーク」、「ディベート」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「振り返り」のアクティブラーニングの5つの形態のうちのいずれかが、全開講回数のうち1回以上実施されている。

3) 本調査におけるアクティブラーニング科目の目的別分類とその定義



注) PBL (project/problem based learning) とは、課題発見・解決型学習のことで、学習者が自ら課題を発見し、その解決を図ることを通して学びを深めるような学習方法のことです。

以下の設問では、貴学科のアクティブラーニング科目を上記の分類ごとにご記入下さい。

例えば、実験などで“専門知識の定着”と“課題解決”の両方を目的とした科目がある場合、比重が最も大きいいずれかの分類にご記入下さい。

(2) 専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目

- 「専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目」とは、**専門知識の定着を目的として、ケーススタディ、実験、演習・実習などを実施している科目**のことです。
- 科目の目的が他のアクティブラーニングの分類と重なる場合、**比重が最も大きい分類**の回答欄に回答して下さい。

※事前に知識は予習教材等で伝達し、授業ではそれを前提としたアクティブラーニングを行う。

※ 該当するものに「✓」。開講講座数が全1講座の場合、そこで実施していれば“全講座で導入”に「✓」。

【記入欄】

配置semester				専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目名	専門知識定着の方法 (50字以内)	定着させる専門知識を伝達している科目	定着させる知識を反転授業で伝達している場合の方法	必修/選択		振り返り		か？	S AあるいはT Aがファシリテータとして授業に関わるか？	開講講座数	担当教員数
1年次	2年次	3年次	4年次					必修	選択	振り返り	振り返り				
前期	後期	前期	後期					目	目	回数	回数				
<small>※1 配置されているsemesterに「✓」、通期開講の場合には前期・後期の両方に「✓」。3学期制の場合、1学期は前期、2・3学期は後期として記入して下さい。 ※2 履修学年が「2年次後期～」などと指定されている科目の場合には、2～4年次の各後期に「✓」。</small>				※例えば、ドリル、実験、小テスト、グループワーク、教え合いなど、どのような方法・手段で知識を定着させているのかお答え下さい。	※定着させるべき知識を当該科目で伝達している場合と、当該科目とは別科目で伝達している場合とがあります。当該科目以外で伝達している科目があればご記入下さい。なお、当該科目で伝達している場合には“同科目”と記入して下さい。	テキストベース 動画ベース	必修科目 選択科目	履修率 (x%)	基本的	基本的	全講座(クラス)で導入	一部の講座(クラス)で導入			
x<20		2時間	2時間												
20≦x<40		3回	3回												
40≦x<60		1回	1回												
60≦x<80		1回	1回												
x≧80															
x<20															
20≦x<40															
40≦x<60															
60≦x<80															
x≧80															
x<20															
20≦x<40															
40≦x<60															
60≦x<80															
x≧80															

注) 記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入して下さい。

【記入欄】

配置セメスター				専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目名	専門知識定着の方法 (50字以内)	定着させる専門知識を伝達している科目	定着させる知識を反転授業で伝達している場合の方法	必修/選択		振り返り		か？	S AあるいはT Aがファシリテーターとして授業に関わるか？	開講講座	担当	
1年次	2年次	3年次	4年次					必修	選択	振り返り	振り返り					
前期	後期	前期	後期	履修率(x%)	テキストベース	動画ベース	必修科目	選択科目	基本的	2時	3時	基本的	2時	3時	回数	回数
				x<20												
				20≦x<40												
				40≦x<60												
				60≦x<80												
				x≧80												
				x<20												
				20≦x<40												
				40≦x<60												
				60≦x<80												
				x≧80												
				x<20												
				20≦x<40												
				40≦x<60												
				60≦x<80												
				x≧80												

注) 記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入して下さい。

(3) 専門知識を活用し課題解決を目的としたアクティブラーニング科目

〔専門ゼミ・専門研究については(4)で、卒業論文・卒業研究については(5)で、それぞれ回答して下さい〕

- 「課題解決を目的としたアクティブラーニング科目」とは、**専門知識を活用して、PBLやモノづくりのような創成型授業などに取り組む科目**のことです。PBL (project/problem based learning) とは、課題発見・解決型学習のことで、学習者が自ら課題を発見し、その解決を図ることを通して学びを深めるような学習方法のことです。
- 科目の目的が他のアクティブラーニングの分類と重なる場合、**比重が最も大きい**分類の回答欄に回答して下さい。

※事前に知識は予習教材等で伝達し、授業ではそれを前提としたアクティブラーニングを行う。

SA: 2年生以上の学部生
TA: 大学院生
ファシリテータ: 単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスも行って授業進行を補佐するような人。

【記入欄】

配置セメスター				課題解決を目的としたアクティブラーニング科目名	授業内容 (50字以内)	活用すべき専門知識を伝達している科目	活用すべき知識を反転授業で伝達している場合の方法	必修/選択		振り返り		SAあるいはTAがファシリテータとして授業に関わるか?	開講講座(クラス)数	担当教員数	⇒複数教員の協働内容 (複数教員が担当する場合)									
1年次	2年次	3年次	4年次					必修/選択	⇒選択科目の場合	振り返り	振り返り													
前	後	前	後	前	後	前	後	必修	選択	基本	時	基本	時	全講座(クラス)で導入	一部の講座(クラス)で導入	導入していない	授業内容の企画・設計	シラバスの作成	授業運営	教材作成	評価基準作成	ルーブリック作成		
										履修率 (x%)	基本的	2	時	基本的	2	時								
										x<20														
										20≤x<40														
										40≤x<60														
										60≤x<80														
										x≥80														

注) 記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入して下さい。

(4) 専門ゼミ・専門研究

該当する選択肢に「✓」を記して下さい。なお、専門ゼミ・専門研究では、指導教官・研究室ごとにそれぞれ別科目として扱われていることがありますが、ここでは**専門ゼミや専門研究そのものを1科目として**記入して下さい。

- 記入例) ・ 2年次後期に「プレ演習」(選択科目、履修率90%)、3年次通期に必修科目「演習Ⅰ」、4年次通期に必修科目「演習Ⅱ(卒業研究)」が配置されている。
 ・ 各演習とも講座数は20講座である。

科目名	必修/選択 ※該当する選択肢に「✓」		選択科目である場合の履修率(x%) ※卒業までに学科学生の何%が履修しますか? 該当する履修率に「✓」を記して下さい。					配置されているSemester						ゼミ あるいは 講座の 開設数
	必修	選択	x<20	20≤x<40	40≤x<60	60≤x<80	x≥80	2年次		3年次		4年次		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	
プレ演習		✓					✓		✓					20
演習Ⅰ	✓									✓	✓			20
演習Ⅱ(卒業研究)	✓											✓	✓	20

【記入欄】

科目名	必修/選択 ※該当する選択肢に「✓」		選択科目である場合の履修率(x%) ※卒業までに学科学生の何%が履修しますか? 該当する履修率に「✓」を記して下さい。					配置されているSemester						ゼミ あるいは 講座の 開設数
	必修	選択	x<20	20≤x<40	40≤x<60	60≤x<80	x≥80	2年次		3年次		4年次		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	

注) 記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入して下さい。

(5) 卒業論文・卒業研究

※ 卒業レポートのみの場合、卒業実験のみの場合は含みません。

チェック欄には該当する選択肢を「✓」して下さい。

番号	設 問	選 択 肢	チェック欄	番号にしたがって お進み下さい。
①	卒業論文・卒業研究はありますか？	ある ----- ない	択一	②へ 次頁へ
②	卒業論文・卒業研究がある場合、それは全員必須とされていますか？	全員必須とされている ----- 必須とされていない	択一	③へ ④へ
③	卒業論文・卒業研究が全員必須とされている場合、論文の執筆量などの規定はありますか？規定がある場合には、選択肢に「✓」した上で、その下の<記入欄>にその量規定について記述してください。	最低限の量規定がある ┌<量規定 記入欄> ----- 量の規定は無い	択一	⑥へ
④	卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない場合、学科1学年の学生数を母数として、卒業論文・卒業研究に取り組む学生の割合はおよそどのくらいですか？	20%未満 ----- 20%以上 40%未満 ----- 40%以上 60%未満 ----- 60%以上 80%未満 ----- 80%以上 100%未満 ----- 100%	択一	⑤へ
⑤	卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない理由はどのようなものですか？また、卒業論文・卒業研究が全員必須である必要がない場合、その理由についてその下の<記入欄>に記述して下さい。	必要であるが、やむを得ず必須としていない ----- 全員必須である必要がない ┌<その理由 記入欄>	択一	⑥へ
⑥	卒業論文・卒業研究がある場合、その審査は誰が行いますか？	複数教員により審査が行われる ----- 担当教員のみ審査が行われる	択一	⑦へ
⑦	卒業論文・卒業研究がある場合、審査（評価）において、明文化された審査（評価）基準チェックシートはありますか？	ある ----- ない	択一	⑧へ
⑧	卒業論文・卒業研究がある場合、その発表はどのように行われますか？（複数回答可）	卒論（卒研）発表会が行われている ----- 全員参加のポスターセッションがある ----- 優秀論文の発表会がある ----- 卒論（卒研）発表会は行われていない	複数 回答可	⑨へ 次頁へ
⑨	卒論（卒研）発表会が行われている場合、全員の口頭発表はありますか？	全員の口頭発表がある ----- 全員の口頭発表はない	択一	⑩へ
⑩	卒論（卒研）発表会が行われている場合、その発表は成績に反映されますか？	反映される ----- 反映されない	択一	次頁へ

(6) 学科の教育目標と各科目との関係性

		該当する項目に「✓」	近似の能力名
① 学科として学生に獲得させるべき能力が明文化され、学生に提示されている。			
② 上記①の能力と各科目の対応関係を示した右図のようなマトリックス等が作成されている。			
③ 上記の対応関係がシラバスに提示されている。			
④ ①で提示されている能力に「✓」を付けてください。 ※近似の能力の場合、「✓」の右側に実際に表記されている能力名を記入してください。 (学科の特性を問わず必要とされる汎用的能力=ジェネリックスキルについてのみお答えください) その他の能力 (右欄に具体的に能力名を記入してください)	情報収集力		
	情報分析力		
	課題発見力		
	構想力		
	表現力		
	実行力		
	親和力		
	協働力		
	統率力		
	問題解決力		
その他の能力 (右欄に具体的に能力名を記入してください)			

科目と能力の対応表の例 (記載されている能力は一例です)

科目名	学修成果との関連									
	◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連									
	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	表現力	実行力	国際社会に関する知識の理解	経営に関する知識の理解	数量的スキル	コミュニケーションスキル
基礎ゼミ	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	△	◎
ミクロ経済学	◎	◎	◎		△					○
マクロ経済学	◎	◎	◎	△						◎
ボランティア実践					◎	◎	◎	◎		
マーケティング	△	△	○							◎
組織マネジメント			◎		○					

(7) アクティブラーニングへの取り組みの4年間の変化

①4年前の2011年度と比較して、アクティブラーニングへの取り組みに変化がありましたか。あてはまるものに「✓」を付けてください。

大きく進んだ やや進んだ 変化していない 後退した

②上記①で、「大きく進んだ」「やや進んだ」を選択された場合、当てはまる内容に「✓」を入れ、変化の内容を具体的にご記入ください。

(複数回答可)

学科・学部・全学等の
組織・施策の変化

⇒

--

学科における
教員個人の変化

⇒

--

学科・学部・全学における
ICTやファシリティ等の変化

⇒

--

以上、ご協力ありがとうございました。